

市議会だより

『夏号』Vol.32

三郷市議会議員

えい いずみ

加藤 英泉

所属会派：21世紀クラブ



笑顔あふれる
ふるさと三郷

皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。これまでの経験と新たな発想で議会活動に真摯に取り組んで参りますので、ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。目指すは『笑顔あふれるふるさと三郷』。住み続けたいま

ちに、さらに前進。

■議会所属委員会

- ①議会運営委員会
- ②三郷中央地区周辺対策特別委員会
- ③文教経済常任委員会
- ④三郷インターチェンジ周辺対策特別委員会委員長

《令和5年(2023)6月 定例議会報告》

会期:5月29日～6月9日

●6月議会は29議案が審議され全議案とも可決。主な議案は工事請負契約が3件あり、市役所本庁舎空調設備改修工事（その3）、前間小学校改修工事、彦糸中学校改修工事。また、電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援対策（市内経済活性化事業）として、市内の対象約400店舗でキャッシュレス決済を使用した消

費者に対し、決済金の20%（総額3億5千万円）が還元されるキャンペーンが（秋頃の予定で）実施されます。そして、子育て移動支援事業として、令和5年4月1日以降に出生の子（の保護者）を対象に、タクシー券・バス回数券・ガソリン券の内、いずれか1万円分が補助されます。

《その他、主な事業につきましては広報みさと7月号にも掲載されています》

《ホームページにおいては私の一般質問及びその答弁を全文掲載しています》

① 交通問題

(1).タクシー問題

A. 現状について

市内のタクシー会社は彦成タクシー、三郷交通、明治タクシーの3社があり、3社の登録台数は合計77台ですが、先のコロナ禍により状況が様変わりしてしまいました。

タクシー業界は、全国的にも運転手は稼げなくなってしまい、生活が成り立たないため辞める人が続出し、高齢者などが殆どになり、市内においても同様で、「車はあるが、運転手がない」状況は今でも続いており、そのため、駅前に待機するタクシーも少なく、電車から降りて、お通夜や葬式などに行こうとしている人たちの焦り、戸惑いや呆れた顔を

見ていますと三郷市のイメージを悪くしている。また、クレジットカードの取り扱いも3社の内まだ1社のみであり、遅れ気味の感は否めません。

また、今議会でも可決された少子化対策で、タクシー券・バスの回数券・ガソリン券の配布が予定されていますが、前回実施の高齢者・妊産婦移動支援事業でタクシー券の配布がありましたが、利用率或いは回収率はどの程度であったのか。

部長答弁 昨年度の高齢者・妊産婦移動支援事業のタクシー券の利用状況については、高齢者移動支援事業については、対象者3万8

718名に対してタクシー券を配布し、その利用率は、62.44%でした。また、妊産婦移動支援事業につきましては、対象者1,478名に対してタクシー券を配布し、その利用率は、51.3%でした。

また、クレジットカードの利用につきましては、導入コストに課題があるとうかがっておりますので、今後とも、三郷地区タクシー協議会と協議してまいります。

イ. 飲食店等への影響について

コロナ禍の下火後、いざ、客足が戻りつつあり、閉店時間を繰り下げてきている今日ですが、10時を過ぎると帰りの足となるタクシーが少なく、このため、駅近の店しか生き残れないのではないかと、また、駅から離れた飲食店は閉店を余儀なくされたり、閉店の道を選ぶ経営者も出てきております。営業時間を午前2時までとしているタクシー会社も、少ない人数の中であって高齢の運転手は10時で上がってしまい、何れも無理強いはできないことだと言います。このままでは飲食店等の深夜営業店舗の衰退の一途は明らかですが、5月22日、国土交通省は公共交通が不便な地域の移動手段を確保するため、法人タクシーの営業規制を緩和する方針を明らかにし、夏頃までに施行を目指すとしています。法人

タクシーの許可も原則5台から、4台以下でも営業を可能とし、個人タクシーの規制も、人口30万人未満の区域でも条件を満たせば認めるとし、交通弱者支援のためNPO法人や自治体などが運送を担う仕組みも改善されますので、市営タクシーの立ち上げを要望いたします。

部長答弁 市営タクシーの立ち上げについては、現在、営業しているタクシー事業者の経営に対する影響について懸念される部分もございまして、新規参入の規制緩和などの動向を注視しつつ、まずは、既存の事業者を支えながら、持続可能な仕組みづくりについて検討してまいりたいと考えております。

ウ. タクシー会社の電話番号掲示について

現在は運転手不足によるタクシー不足。不思議なことに市内3駅のタクシー乗り場にはタクシー会社の電話番号表示の看板が全く見当たりません。市内外の利用者からは不信をかけていますので、行政より各会社にタクシー乗り場に掲示をするように指導を要望いたします。

部長答弁 タクシー会社の電話番号掲示についてですが、現在、電話番号掲示がない状況でございます。電話番号掲示に対する課題を整理し、タクシー会社と協議してまいります。

(2).バス問題

ア. 各事業者・各路線の乗車率について

全国的にもマイカーの普及と少子高齢化、人口減で路線バスの乗客が減っています。路線廃止が許可制から届け出制になったことで、2020年度までの10年間で日本1周相当の1万3千km超の路線が消えており、新型コロナウイルス禍で利用者の減った公共交通は再編を迫られています。三郷市に乗り入れている6事業者の乗車率はどの程度なのか伺います。

部長答弁 令和2年度、令和3年度の年間比較した増減率で、東武バスセントラル株式会社が約5%、京成バス株式会社・メートー観光株式会社がそれぞれ約4%、マイスカイ交通株式会社が約13%、埼玉観光株式会社が約11%の増となっており、京成タウンバス株式会社につきましては、約2%の減となっております。

す。コロナ以前の水準との比較につきましては、おおむね80から85%まで回復しており、回復傾向が認められる状況です。

イ. コミュニティバスの導入について

コミュニティバスは市がコンセプト（計画）を立てて、費用負担をしながら事業として運営し、運転業務（運行）はバス事業者に委託するという役割分担を行うことで、高齢者の外出支援、市街地活性化、公共交通空白地域・不便地域の解消という「政策目的」達成のために、採算確保を前提としないバスサービスを実現するモデルが示されている。現在、三郷市は一部路線を埼玉観光に運営委託をしておりますが、年間5,500万円の委託費はいかにも高すぎます。草加市や八潮市ではコミュニティバスが運行されておりますが、路線数が多い割には予算を見ますと三郷市の半

額程度となっています。今後、路線バス事業者の減便や路線の廃止等も考えられますので、コミュニティバスの導入を考慮、現行の契約のものは契約終了後、他のコミュニティバスに切り替えていくか、大幅値引きの必要があると思います。

部長答弁 新たなコミュニティバスを導入することについては、今年度から着手する地域交通のマスタープランとなる「地域公共交通計画」の策定にかかる議論を通じ、既存のバス路線に対する影響を整理し「三郷市地域公共交通活性化協議会」にて検討してまいります。

ウ. デマンド交通の導入について

公共交通の不採算路線や廃止路線の代替えとして、予約して乗り合うデマンド交通に注目が集まっています。公共交通側からは便利過ぎると問題視されておりますが、「バスが幹線を担って人流を束ね、細部をカバーするデマンド交通と接続するなど分担すれば」交

通空白地域・不便地域の方や交通弱者にとって健康維持や商業の活性化にも繋がります。三郷市においても導入を検討する時期にきていると思っておりますが、見解を伺います。

部長答弁 デマンド交通については、地域にとって最適な移動手段の確保を実現するために、地域における移動ニーズを把握し、利用者となる住民、移動サービスの担い手となる公共交通事業者などとの連携により、移動目的や既存公共交通との役割分担など、地域公共交通の在り方について、議論することが必要なものと考えております。今後は「三郷市地域公共交通活性化協議会」において、新たなシステムの導入を含めて検討してまいります。

所感 コミュニティバス、デマンド交通については、8～9年前から話題にしているが、協議会任せの検討という当座の答弁。協議されていく方向付けがあってもよい時期だが。

② 衛生問題

(1). 駅前トイレの快適環境向上について

ア. 温水洗浄便座の整備について

三郷駅前南北にあるトイレと新三郷駅前のトイレについては、は、市民は勿論、電車を降りて三郷市に来られる方々も利用されます。そんな中、冬の寒い日に駅に降り立ちトイレを利用したら、便座にヒーターも入っておらず、三郷市はこんなものかと冷たいイメージを感じたと言います。トイレは体調不良や生理現象等で困った人が利用するところではありますが、今や、公共的な施設についても温水洗浄便座が整備されつつあります。駅前には市の玄関でもありますので、市の印象や衛生

環境向上のためにも、整備を要望させていただきます。

部長答弁 駅前公衆トイレは、その設置・利用については、利用する方の年齢や性別などに基づく配慮や利便性の向上が求められるとともに、管理の面からも防犯や衛生上の観点など、多角的な視点から、総合的に考えていく必要があると認識しております。温水洗浄便座の整備を含め、トイレの立地や利用状況等も勘案しながら、改善や維持管理に努めてまいります。

③ 道路問題

(1). 都市計画道路3・3・60新和吉川線の市道采女線への早期延伸・接続について

「3・3・60新和吉川線」は、三郷市内を南北方向に新和一丁目を起点に終点の主要地方道草加流山線に接続する主要幹線道路として1996年5月10日に当初の都市計画が決定、告示され、延長3,000m、幅員27mの路線は2015年3月に供用開始しました。2001年3月策定の都市計画マスタープランでは、「武蔵野線操車場跡地・周辺

地域へのアクセス道路となる新和吉川線の構想路線の実現化を図る」とし、埼玉県も「市道采女線の新三郷からシティー丁目を終点とする総延長約3,560mに変更し、都市の健全な発展と秩序ある整備を図る。」として、2009年6月26日に最終決定・告示しました。しかしながら、地域の人たちへの延伸の説明会は開催されたものの、時は過ぎても

一向に動く気配がありません。新三郷駅周辺の商業施設への往来で、土日祝祭日になると周辺の道路は渋滞が激しく、商業施設の評判とは裏腹に三郷市の心象を悪くしています。新和吉川線の延伸はいつになるのか。

市長答弁 都市計画道路は、人や物資の円滑な移動を確保するための交通機能や、防災性の向上など、まちの骨格を形成する重要な施設の一(ひと)つであることから、長期的な観点により、整備を進めていく道路でございます。

す。新和吉川線は、「三郷中央」と「ららしティ」の拠点を繋(つな)ぐ重要な路線の一(ひと)つと考えております。都市計画道路の進捗状況を勘案し、他(た)の路線との調整を図りながら、事業実施に向け、努めてまいります。

所感 「まちづくりは道づくり」と公約してる割にはやる気なし、これでは10年先か。渋滞は市民の経済活動の大きな阻害要因なのに、経済と市民感情に理解を示してない。

④ 産業振興問題

(1).後谷小学校の廃校利用について

ア. 北部開発についての地域との意見交換や要望について

令和3年6月議会の質問に対し、「三郷料金所スマートインターチェンジ周辺の土地利用については、道路の整備による交通の利便性を活用し、産業機能の集積を図る産業拠点の形成を目指し、地元との意見交換や調整を図りながら進めて参ります。」という答弁がありました。その後、廃校利用についてはどのように考えておられるのかお聞きいたします。

イ. 道の駅の整備について

道の駅に関する質問は北部については3回目となりますが、2018年3月議会における質問に、「産業振興に寄与するものと認識しておりますが、各地域における特性などを十分に踏まえ、地域の皆様方からのご意見を伺いつつ、関係機関や関係部署と様々な視点から総合的に検討を重ねてまいります。」と答弁されております。あれから5年が経過し、環境や状況も大きく変化してきており、地域の方々の期待もあります。10年前は調査研究

、5年前は検討を重ねるという答弁でした。結論、決断の時期だと思えます。お考えは？。

市長答弁 発展していくこの地域の交通利便性を活かし、産業の拠点として、高度な土地利用を検討していく必要があるものと考えているところであり、地元との検討会において、調整を図りながら、今後のまちづくりについて検討を進めているところでございます。

道の駅につきましても、地域の皆様のご意見を伺いながら、産業活動の中心的な役割を担う地区を目指し、必要に応じ検討してまいりたいと考えております。

部長答弁 昨年度からの2回の地権者との意見交換・検討会で、後谷小学校に関する具体的なご意見は伺っておりませんが、今後の検討会における意見交換や、様々な形で地域の方々との議論を深めていく中で、関係部署と連携し、当該地域での道の駅の整備を含め、検討してまいりたい。

所感 この機に及んで必要に応じてとか検討してとかは、はては道の駅はやる気なし？。

一般質問の執行部の答弁で、調査研究、調査検討して参りますというが、いつまでたっても調査、研究や検討した結果或いは進捗状況などの報告を受けたことがなく、その場しのぎの都合のよい答弁の感は否めない。このことが質問者のやる気や意欲を喪失させている。この面白みのなさがひいては有権者の興味を削いでいて、低投票率の一因となっている。仕事は面白いもの。真摯に調査研究に勤しんで欲しいものであると常々感じる。

加藤英泉後援会



HP <https://eiizumi.com/> E-mail ktt@ceres.ocn.ne.jp
〒341-0024 三郷市三郷2-1-9 TEL 048-957-0962 FAX 048-957-0966